

大学名	山梨大学		
University	University of Yamanashi		
外国人研究者	李力		
Foreign Researcher	LI Li		
受入研究者	大山勲	職名	教授
Research Advisor	OOYAMA Isao	Position	Professor
受入学部/研究科	総合研究部・生命環境学域		
Faculty/Department	Graduate School of Life and Environmental Science		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中華人民共和国
Nationality	People's Republic of China
所属機関	西南交通大学
Affiliation	Southwest Jiaotong University
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	7月10日-9月13日
Period of Stay	From 10th of July to 13th of September
専攻分野	環境社会創生工学専攻
Major Field	Natural, Biotic and Social Environment Engineering



大井川鐵道蒸気機関車動態保存の視察

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

① 研究課題 / Theme of Research

観光交通による地方の地域資源を活かした内発的活性化の取り組みの効果と課題
-日本と中国の比較研究-

② 研究概要 / Outline of Research

中国では新幹線網など幹線交通整備による人々の移動利便性が飛躍的に高まり、観光活動も活発になってきたが、地方の交通環境・資源保全・観光施策は遅れている。

そこで、今回は日本における民営鉄道観光の実態を把握し、特に様々な交通・移動の工夫との関連に着目して、鉄道を中心とする観光活動、効果的な鉄道観光施策と今後の課題を抽出する。日本の先進事例に学ぶことによって、中国における地方鉄道観光の活性化に資する持続的・内発的な観光開発のあり方および輸送密度の低い鉄道観光を発展させる打開策、観光列車の運営の可能性などを検討する。研究方法は山梨県内および全国の対象地において、フィールドサーベイおよびヒアリングによって、空間整備状況、交通の状況、観光客の利用実態、観光施策の取り組み状況を把握する。

③ 研究成果 / Results of Research

今回の研究期間中に、主に以下のような研究を行った。

- 1) 中国における鉄道発展の現状と、鉄道を観光資源とする観光開発の可能性を踏まえて、日中両国における鉄道運営の類似点と相違点を見出し、日本における観光鉄道の先進事例を把握することによって、地方政府、民営組織、鉄道会社が鉄道観光の中で、直面している問題点および解決方法を学んだ。
- 2) 特に、新しい時代の背景の下で、鉄道に対するニーズは観光先までの単なる移動手段だけではなく、利便性・快適性・鉄道乗車体験そのものの楽しみ、沿線の着地型の地域資源の体験などニーズが多様化しており、鉄道観光が直面する問題点と解決策を考察した。
- 3) 日本の鉄道を中心とした観光客向けの内発的活性化の取り組みの多様性を見出し、中国の鉄道観光において、日本側の鉄道観光の成功した経験を参考にする可能性を検討した。

④ 今後の計画 / Further Research Plan

今回の実態調査のデータに基づいて「鉄道を観光資源とした観光開発の内発的活性化の取り組みに関する研究(仮名)」という論文を完成させ投稿したい。また、実践プロジェクトにおいて、日本における鉄道観光の先進事例を活かし、中国の鉄道観光の更なる発展への提案をしたい。

< 受入研究者からの報告/Research Advisor Report >

① 研究課題 / Theme of Research

観光交通による地方の地域資源を活かした内発的活性化の取り組みの効果と課題
-日本と中国の比較研究-

② 研究概要 / Outline of Research

中国における鉄道は、特に新幹線など幹線の整備は飛躍的に発展しているが、地方では整備が遅れ、それが地域の経済発展の格差にも影響を与えている。日本においても地方鉄道に同じ問題が生じているが、日本においては様々な取り組みが行われている。今回は特に観光と鉄道の関係に着目して日本全国各地の鉄道観光の成功事例を指導し実際の現場をサーベイすることを指導した。この調査にもとづいて中国の経済低迷地域における輸送密度が低い鉄道路線を活用した施策の検討に役立つ日本の取り組みや知見の情報を提供した。

③ 研究成果 / Results of Research

主に東北地域、甲信越地域、九州地域などの鉄道観光の関連地域を調査し、研究課題に関する資料を収集した。そして、鉄道体験を目的とする観光形態の利点と問題点を抽出でき、鉄道を交通手段とする地域観光形態について鉄道と地域の内発的活性化の関連性を理解できた。地方赤字ローカル線における沿線資源を活用した観光客誘致とそれによる経営維持、あるいは鉄道車両や車内活動自体の観光資源化、新幹線等幹線鉄道の開業と沿線の資源発掘・再生・活用、廃線鉄道の活用、鉄道駅と自転車・EV等の交通リンクの強化による都市環境や観光環境の改善、さらに、新たな鉄道・交通施策を契機とした地方の内発的な活動の発生やまちづくり活動への展開、など、中国にはまだ乏しいこれらの取り組みの現場を視察・調査することにより、鉄道観光による地域活性化や地域の持続的発展への新たな可能性を見いだした。

④ 今後の計画 / Further Research Plan

今回の調査をきっかけにして、日本の鉄道観光の取り組みの効果と課題をまとめ、今後の改善方法を提出したい。日本および中国における鉄道観光と地域内発的活性化の関係をより一層明らかにするため、外国人研究者との継続的な協力関係の確立および共同研究体制を構築し、引き続き努力していく計画である。同時に今回の調査内容をこれから指導する留学生の研究にも役立てていきたい。



リニア見学センターでのヒアリング



タウンモバイルネットワーク北九州でのヒアリング